



9月24日、イタリアのアッシジで開かれた「フランチェスコの経済」と題した会議で、若者たちに向けポーズを取る教皇フランシスコ(CNS)

# 教皇、若者たちに促す 貧しい人の参加と環境保護

## アッシジで会議「フランチェスコの経済」

【ローマ9月24日CN】教皇フランシスコは、現代の若者たちが住む世界は不平等と不正義、戦争と環境破壊に見舞われているが、それに対する明確な解決策を求めていく中で、貧しい人の参加や地球の世話、雇用の創

出を促進していくよう呼びかけている。「私たちの世代は皆さんに、大きな繁栄を残せてはいません。ただ、私たちは地球を守るすべを体得するには至らず、平和を保つことができていません」と教皇は9月24日、イ

和やエコロジ、財政や開発について学び、より多くの人と環境のために経済を実現するための道を探してきた。こうしたプロジェクトは、アッシジの聖フランシスコが貧しい人と被造物への愛で知られたことになみ、「フランチェスコの経済」と名付けられ、教皇庁総合人間開発省の後援を受けてきた。

意味を求める  
「霊的な資本」  
会議の最後に参加者



9月24日、アッシジで行われた「フランチェスコの経済」の会議の間に若者たちとの写真撮影に応じる教皇フランシスコ(CNS)

「①戦争ではなく平和のための経済②武器、特に大量破壊兵器

の拡散を防ぐ経済③被造物の世話をし、搾取しない経済④人と家庭とのち、全ての人、子どもたち、高齢者、特に弱く、被害に遭いやすい立場に置かれてる人に奉仕する経済」だった。

教皇フランシスコはさらに若者たちに向けて、自分たちの「霊的な資本」である信仰と価値を保ち、強めていくよう励まし、それが研究や働き、特に人生への意味を与えることになることを強調する。

「地球は今にも燃え尽きてしまいうそで」と教皇は警鐘を鳴らす。「エコロジーの移行変わりについて話

見失っているのは、「数世紀にわたって、宗教や賢明な伝統、民衆の信心によって蓄積されてきた、この欠くことのできない資本です」。

化石燃料の使用  
今こそやる時  
新しい経済は、アッシジの聖フランシスコに倣い、「地球に優しい経済、平和の経済とならなくてはなりません。人を殺す経済から、あらゆる側面において、いのちの経済につくり変えていくのです」と教皇は訴える。

「私たち人類は、過去の2世紀の間、地球を犠牲にして成長を遂げてきました。私たちはしばしば、全ての人のためではなく、自分たちだけを富ませるために搾取を重ねてきました」と教皇フランシスコは若者たちに語った。「今こそ、あらためて勇気を出して、化石燃料の使用をやめ、悪影響がないか実際のエネルギー源の開発を加速させる時です」

しながら、地球と資源を搾取していた20世紀の経済のパラダイム(枠組み)にとどまっただけでは、私たちが採用していく戦略は全く不十分になってしまわなければならない

「私たち人類は、過去の2世紀の間、地球を犠牲にして成長を遂げてきました。私たちはしばしば、全ての人のためではなく、自分たちだけを富ませるために搾取を重ねてきました」と教皇フランシスコは若者たちに語った。「今こそ、あら

めて勇気を出して、化石燃料の使用をやめ、悪影響がないか実際のエネルギー源の開発を加速させる時です」